

平成 20 年度 第 5 回常任委員会 議事録 (案)

日 時：平成 20 年 1 月 30 日 (火) 14 : 00～15 : 40

場 所：土木学会 講堂

出席者：宮川委員長，横田幹事長，石橋，入矢，上田，魚本，宇治，岡澤，金津，河野，黒田，坂井（代理：久田），佐藤勉，佐藤良，島，下村，新藤，鈴木，武若，手塚，富田，二羽，丸山，睦好の各常任委員，岸，佐藤，信田，服部，濱田の各幹事，村木（事務局）

配布資料：

- 5-0 平成 20 年度 第 5 回常任委員会 議事次第
- 5-1 平成 20 年度 第 4 回常任委員会 議事録 (案)
- 5-2 ローマコンクリート調査小委員会
コンクリート常任委員会委員からのご指摘事項と対応について
- 5-3 コンクリート委員会常任委員会 委員構成
- 5-4 平成 20 年度コンクリート委員会一般会計・特別会計予算案
- 5-5 平成 21 年度「重点研究課題 (研究助成金)」申請書
- 5-6 平成 21 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について
- 5-7 研究事業課の課内業務分担
- 5-8 土木学会論文集再編における課題整理
- 5-9 行事開催計画書への会員特典の明示について
- 5-10-1 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会 (340 委員会)
- 5-10-2 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会
- 5-11 コンクリート構造物の耐震・耐久信頼性設計法に関する報告書
- 5-12 産業技術研究助成事業 (若手ブランド) 平成 21 年度公募の御案内

参考資料：

- ・コンクリート構造物の信頼性設計法に関する研究小委員会報告書 (コンクリート技術シリーズ 83)
- ・圧接 2008. 7
- ・圧接 2008. 10

議 事：

1. 委員長挨拶 (宮川委員長)

宮川委員長より，開催にあたり挨拶があった。

2. 前回常任委員会議事録の確認 (資料 5-1)

服部幹事より前回議事録 (案) が読み上げられ，以下の修正の後に承認された。

- ・ 3 ページの「次回は 3 月 10 日 (火) に WG 主査幹事会を開催」を「次回は 3 月 10 日 (火) ころに WG 主査幹事会を開催」とする。

3. 審議事項

(1) 114 ローマコンクリート調査小委員会報告書・修正意見への対応（資料 5-2）

坂井委員の代理の久田氏より、堺委員からの指摘への対応として、委員会報告書の総括の中に、今回の調査成果が、長期耐久性が要求される構造物の設計等に十分に活かせること（総括 1）、骨材が具備すべき点に関する示唆に富むこと（総括 2）、耐久性に関する考え方の新たな糸口として参考になること（総括 3）、を加筆することが説明された。その後の議論を以下に要約する。

- ・ 追加される 3 つの総括に関する説明が本文中にも記載されるのか。
-> 記載される。
- ・ 総括 2 に関する具体論をどこかに書き込めるのか。
-> 現在の規準の数値を緩和すべきなどの結論は得ておらず記述できない。
- ・ 骨材が多孔質で低品質であるという特性を、どのようにカバーしていたのかが分かっているのか。
-> 明らかにできていない。
- ・ 鉄筋や鋼材自体の耐久性及びそれらがコンクリートの耐久性に及ぼす影響は分かっているのか。
-> 遺跡からの金属類の入手が極めて難しく、調査の対象をコンクリートに限定したので不明。
- ・ ローマコンクリートが残存している理由を骨材だけに求めることは難しいのではないか。
- ・ 総括 1 は、今のコンクリートとローマコンクリートの違いに基づき導き出された結論なのか。
- ・ 目的、調査内容、結果がきちんとまとめてあればよいのであり、根拠のない結論を無理に引き出そうとする必要はない。

最終的に、以上の意見を小委員会で議論した後に出版することが認められた。なお、常任委員会での再議論の必要はない。

(2) 1 種・2 種小委員会委員追加・変更（資料 5-3）

宮川委員長より、猪熊委員から常任委員交代の申し出があり、残された任期が 2 ヶ月程度ではあるが、その申し出の通り、中日本高速道路（株）企画本部技術開発部専門主幹 宮内秀敏氏への委員交代が承認された。

(3) その他

特になし。

4. 報告事項

(1) 平成 20 年度支出状況中間報告（資料 5-4）

横田幹事長より、支出状況に関して、今年度は赤字になっている委員会はないこと、3 種委員会が経費を抑えた活動を行ってくれていること、800 万程度を示方書の英訳作業に充てていること、などが説明され、引き続き計画通りの予算執行が依頼された。

(2) 平成 21 年度重点研究課題の募集（資料 5-5）

服部幹事から、各委員からの提案がなかったので、幹事会として研究課題を用意したことが述べられ、この研究課題の代表研究者である濱田幹事より研究課題の概要が説明された。その要約を以下に示す。

- ・ 環境問題への対応を背景とし、環境調和型材料技術の高度化と材料供給システムの確立を目的とし、(1) 個別の技術開発成果の整理に基づく STA の評価、(2) 学問体系としての「環境調和型コンクリート材料学」の創造、(3) 現行の材料供給システムが包含する問題点、今後の材料供給システムのあり方の検討、の 3 つの項目について調査、研究する。
- ・ 特に、土木学会としての重点課題である「環境問題と新しい学問体系の作成」、ならびに堺委員が中

心にまとめられたコンクリートライブラリー125 の結論にある「産業廃棄物の再利用」を推し進めるための研究を強く意識した。

以下に議論の要約を示す。

- ・ 教育研究小委員会において WEB ラーニングへの申請を検討している。過去に採択されているものは環境やリサイクルに関するテーマである。時間的に間に合えば、この研究成果を WEB ラーニングに使わせてほしい。
- もし採用されれば、1年後にはその活動を3種委員会の中で展開することを考えている。活動のスピードと教材作成のスケジュールが一致するかどうか不明であるが前向きに議論してゆきたい。
- ・ 環境負荷低減を考えるのであれば、コンクリートに限定することなく色々な材料を対象とした方がよいのではないか。
- ・ 項目(1)と(2)はコンクリートを対象とした項目であり、項目(3)はコンクリートを含む社会へ発信できる項目である。市場に任せてもリサイクルは進むわけではなく、それゆえ項目(3)に力点を置くとよいのではないか。
- ・ 項目(3)を議論しようとする場合、建築分野との連動は必要不可欠である。土木学会だけでは限界がある。
- 時間的な制約からも項目(1)と(2)に重点を置く。

最終的に、1年間で問題点を整理した後に調査活動を本格化させていくことを想定し、申請準備を進めることとなった。

(3) 平成21年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について（資料5-6）

横田幹事長より研究討論会企画へのテーマの推薦が依頼された。

それを受け、下村委員より、示方書連絡調整委員会において示方書の将来に関する議論を深めており、その議論をベースとした「示方書の今後に関する公開討論」の開催が提案された。また、宇治委員より、示方書改訂小委員会において、5月の連休明けに中小企業や地方をも対象とした示方書に関するアンケート調査を行う予定であることが紹介された。

意見交換の後、下村委員と宇治委員が研究企画の案を作成し、次回の常任委員会において議論することとなった。

(4) 研究企画委員会の報告

信田幹事より、研究企画委員会における議論に基づき以下の情報が提供された。

- ・ 学会全体としての予算状況が厳しく、来年度の調査研究予算は本年度より約15%削減され、おおよそ3200万円となる。それゆえ、各調査研究委員会への配分も同程度減額される予定である。
- ・ 文部科学省による土木学会の法人としての運営に関する実地調査が行われた。その結果、早急に対応すべき事項として、助成事業の実績及び奨学制度の効果に対する適切な検証・評価の実施が挙げられた。それゆえ、来年度から、重点研究課題（研究助成金）に採択された研究に対して、推薦者（所属する委員長）による評価が求められることになる。ただし、評価項目などの詳細は決まっていない。
- ・ 予算的な制約から来年度の重点研究課題の採択件数が減る可能性が高い。

(5) 材料工学連合講演会

服部幹事より、来年度の土木学会の窓口が服部幹事と国枝氏（名古屋大学准教授）になったこと、また、講演会のオーガナイズドセッションに対し、たとえば第3種委員会の成果報告の場として活用するなど、積極的な協力が依頼された。

(6) 土木学会論文集改革中間報告（資料 5-8）

信田幹事より、調査研究委員会に編集権を委譲する案件に関する最近の審議状況が説明された。その説明と質疑の要点を以下に示す。

- ・ 2011年に新しいシステムに移行する。部門Eの方針は3月頃までに決める。全体としての方針は6月頃までにまとめられ学会誌にて発信される。
- ・ 舗装工学委員会は独自に土木学会論文集を刊行したい意向を持っている。
- ・ 部門Fは将来的になくなる。それゆえコンクリート委員会が刊行する土木学会論文集に施工に関する論文を取り込む必要がある。
- ・ 新しい部門ごとのテリトリーはどうなっているのか。
-> 現在、再編後の姿を具体化するためにキーワードの抽出を行っている。
- ・ たとえば、コンクリート構造の耐震に関する論文は、部門Aに投稿されたり、部門Eに投稿されたりしており、これを整理する必要があるのではないか。
-> ある程度のキーワードの重複はあり得るし、また、どの部門に投稿するかは著者が自由に選べるようにした方がよい。
- ・ 英文論文集の方向性に関しては、現在行われている議論（日本語論文集の取り扱い）の後に考えることになっている。
- ・ 他に意見があれば信田幹事か丸山委員へ送る。

(7) 会員特典（資料 5-9）

横田幹事長より、調査研究部門主査理事からの依頼として、会員と非会員の講習会参加費に差をつけるなどして、会員の特典をより鮮明にすることへの協力が求められた。

(8) 3種小委員会委員追加・変更（資料 5-10-1, 5-10-2）

服部幹事より 340 および 341 小委員会の委員名簿が紹介された。340 小委員会の名称が大きすぎるのではないかとの意見が出されたが、名称の変更は求めず活動を進めてもらうことが確認された。

(9) 講習会報告（資料 5-11）

鈴木委員より、336 小委員会の報告書の概要と講習会の会計が報告された。

(10) NEDO 産業技術研究助成（資料 5-12）

横田幹事長より、NEDO 産業技術研究助成への公募案内が紹介された。

(11) その他

- ・ 鈴木委員が次年度の構造工学委員会委員長に選ばれたことが紹介された。
- ・ 信田幹事より ConMat'09 へ寄せられたアブストラクトが 270 編にも及ぶことが報告された。また、魚本委員より ConMat'09 への協力に対して謝意が述べられるとともに、会議への参加に対してさらなる協力が依頼された。

5. その他

- ・ 次回幹事会：2009年3月10日（火）。（常任委員会への案件締切り：3月9日）
- ・ 平成20年度第6回常任委員会：2009年3月16日（月）15:00～17:00。

以 上